

水俣・福岡展2023協賛企画 in 西南学院大学

藤原辰史×柿木伸之 対談

水俣を想う 歴史家と哲学者の対話 ——生類の歴史へ

2023

10月29日

17:30開場 18:00~20:00

主催・問い合わせ先

西南学院大学ことばの力養成講座
(法学部 田村元彦 mtamura@seinan-gu.ac.jp)

西南コミュニティーセンター・ホール

福岡市早良区西新6丁目2-92 西南学院大学東キャンパス内

地下鉄：福岡市営地下鉄空港線・西新駅 3番出口より徒歩約4分
西鉄バス：「西新4丁目」下車、徒歩約6分

聴講券の予約について

一般1000円 学生無料 事前にメールにて予約(当日券も発売予定)

①(28日)か②(29日)のどちらの企画かを明記した上で、
氏名・所属・必要な枚数を以下にお知らせください。

tamurazemi.24@gmail.com



Fujihara
Tatsushi

藤原辰史

1976年生まれ、2002年、京都大学人間・環境学研究科中途退学、同年、京都大学人文科学研究所助手、東京大学農学生命科学研究科講師を経て、2021年4月現在、京都大学人文科学研究所准教授。研究テーマは、食と農の現代史。主な著作に『ナチスのキッチン』(共和国、河合隼雄学芸賞)、『給食の歴史』(岩波新書、辻静雄食文化賞)、『トラクターの世界史』(中公新書)、『戦争と農業』(集英社インターナショナル)、『分解の哲学』(青土社、サントリー学芸賞)、『縁食論』(ミシマ社)、『農の原理の史的研究』(創元社)、『歴史の肩拾い』(講談社)、『植物考』(生きのびるブックス)など。島根県出身。



Kakigi
Nobuyuki

柿木伸之

美学を中心に哲学を研究。20世紀のドイツ語圏の思想を研究の焦点とする。著書に『ヴァルター・ベンヤミン——闇を歩く批評』(岩波新書、2019年)、『断絶からの歴史——ベンヤミンの歴史哲学』(月曜社、2021年)、『ベンヤミンの言語哲学——翻訳としての言語、想起からの歴史』(平凡社、2014年)、『燃エガラからの思考——記憶の交差点としての広島へ』(インパクト出版会、2022年)、『パット・ゲティ・テシマッタ後の世界へ——ヒロシマを想起する思考』(インパクト出版会、2015年)などがある。訳書に『細川俊夫 音楽を語る——静寂と音響、影と光』(アルテスパブリッシング、2016年)がある。芸術評論も手がける。広島市立大学国際学部教授を経て、現在西南学院大学国際文化学部教授。鹿児島市出身。

水俣・福岡展2023協賛企画 in 西南学院大学

町田康×米本浩二×渡邊英理 鼎談

石牟礼道子と水俣

「苦海浄土」の世界を語る

2023
10月28日

開場……………17:00

開演……………17:30

主催・問い合わせ先

西南学院大学ことばの力養成講座
(法学部 田村元彦 mtamura@seinan-gu.ac.jp)

西南コミュニティーセンター・ホール

福岡市早良区西新6丁目2-92 西南学院大学 東キャンパス内

地下鉄：福岡市営地下鉄空港線・西新駅 3番出口より徒歩約4分

西鉄バス：「西新4丁目」下車、徒歩約6分

聴講券の予約について

一般1500円 学生無料 事前にメールにて予約(当日券も発売予定)

①(28日)か②(29日)のどちらの企画かを明記した上で、
氏名・所属・必要な枚数を以下にお知らせください。

tamurazemi.24@gmail.com



Machida
Kou

町田康

作家。武蔵野大学文学部教授。大阪生まれ。高校時代より町田町蔵の名で音楽活動始める。1997年に処女小説『くっすん大黒』で野間文芸新人賞、Bunkamuraドゥマゴ文学賞、2000年には『きれぎれ』で芥川賞を受賞。01年詩集『土間の四十八滝』で萩原朔太郎賞、02年『権現の踊り子』で川端康成文学賞を受賞、05年『告白』で谷崎潤一郎賞、08年『宿屋めぐり』で野間文芸賞を受賞。近刊に『猫のエルは』(講談社文庫)、『ギケイキ 千年の流転』、『ギケイキ2 奈落への飛翔』(河出文庫)、『私の文学史 なぜ俺はこんな人間になったのか?』(NHK出版新書)、『口訳 古事記』(講談社)など。著書多数。



Yonemoto
Kouji

米本浩二

1961年、徳島県生まれ。毎日新聞記者をへて著述業。著書に『評伝石牟礼道子 渚に立つ人』(2017年、新潮社、読売文学賞評論伝記賞)、『不知火のほとりて 石牟礼道子終焉記』(2019年、毎日新聞出版)、『魂の邂逅 石牟礼道子と渡辺京二』(2020年、新潮社)、『水俣病闘争史』(2022年、河出書房新社)など。福岡市在住。



Watanabe
Eri

渡邊英理

大阪大学大学院人文学研究科教授。日本語文学、批評。熊本県生まれ、鹿児島育ち。東京大学大学院総合文化研究科単位取得後退学。宮崎公立大学人文学部准教授、静岡大学人文社会科学部准教授、大阪大学大学院文学研究科准教授を経て現職。単著『中上健次論』(インスクリプト、第14回表象文化論学会賞)、共編著『クリティカル・ワード 文学理論』(フィルムアート社、三原芳秋・鶴戸聡との共編著)、共著『「戦後文学」の現在形』(平凡社)、共著『力と交換様式』を読む(文春新書、柄谷行人ほか著)など。現在、共同通信・配信の文芸時評「いま、文学の場所へ」(全国各紙に掲載)、雑誌『文学界』新人小説月評を連載中。